

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	西和賀町立沢内中学校 全校（4クラス 61名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ○ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	○障害者スポーツへの理解 ○夢、希望を持って努力することの大切さ ○障害者と健常者による違いを理解し、偏見をもたないこと、人との関わりの大切さ について学ぶ機会とする。
5 取組内容	<p>○パラリンピアン横澤高德さん（チェアスキー）の講演。 ○当日は、【開会行事】【講演・実技体験】【閉会行事】の流れで実施した。 ○時間配分については、実技体験の時間を確保していただき、講演を40分程度、実技体験を40分程度とした。</p> <p>&lt;講演&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演に先立ち、これまでの様子をDVDで紹介した。（3分程度）</li> </ul> <p style="text-align: right;">  </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者での生活から障害者となったケガ、落ち込んでいた自分の心、障害者スポーツとの出会いなどの話しをしていただいた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">  </p>

〈実技体験〉

- 各学年を4つのグループに分けそれぞれの車椅子について体験を行った。
- バスケット用車椅子によるスラローム体験



- チェアスキー体験



- 長距離用車椅子体験



- バスケット用車椅子によるシュート体験



6 主な成果

○講演の内容より、障害者になったことの失意、ある障害者との出会いから「できること探し」をした自分の心の移り変わり、障害者スポーツとの出会いなど、ユーモアを交えながら話していただき、障害者スポーツへの理解は深まったと思われる。

○チェアスキーとの出会いと仲間との信頼、絆、周囲の協力や支援により、講師がパラリンピック出場までの努力を続けた経験を聞き、努力型の人間ではなくても、考え方一つで努力し、夢を叶えることができることを生徒に伝わったと思われる。

○ほとんど興味がなかったパラリンピックに対して、2020東京パラリンピックを観戦したいと思う生徒が多かった。

〈生徒の感想より抜粋〉

- 講演を聴いて、「夢や希望を持つこと」「出会いの大切さ」「自分が夢中になれるものを見つけること」が大事だと思った（1年男子）
- 自分ができていないことをできるようにすることや、今できていることを幸せと捉え、もっと実力を伸ばしていきたい（1年男子）
- 「自分と違うからやだ」というのではなく、障害者の方々の気持ちを受け入れることが大切だと思った（1年女子）
- 自分が夢中になれるものを見つけ、それ一筋に挑戦できるように努

	<p>カしていきたい（1年女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから生きていく上で、健常者と障害者ではなく、人と人同士が尊敬し合うことが必要だと知った（2年男子）</li> <li>・講演を聴いて、自分に自信を持って生きられるようになった（2年男子）</li> <li>・パラリンピックに出ている選手や車椅子生活などしている人達が、どれだけ努力したのかが、前よりも分かった気がする（2年女子）</li> <li>・ボランティア活動で自分が戸惑うことがあったが、講演を聴き、困っている方々が笑顔や元気になってもらうための事をしたらいいのだと確信した（2年女子）</li> <li>・障害者と健常者の壁がなくなり、強くつながっていくことで何でもできるのだと感じた（3年男子）</li> <li>・車椅子生活になってから、目標を新しくしたり、少し視点を変えて物事に挑戦したりする話を聴き、自分も目標に向かって頑張ろうという勇気をいただくことができた（3年女子）</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の特性として、小学生時代にはスキーを行っているため、特にチェアスキーの体験をお願いした。DVDによる映像や実際にチェアスキーに座ることで、健常者のスキーと異なる点に驚き、戸惑うことで視野が広がったものと思われる。</li> <li>○通常の手椅子については、小学生時代に体験しているものの、競技用手椅子については全員が未経験者であったため、全員が体験する機会を設定した。</li> <li>○福祉体験として高齢者と接することはあっても、障害者との交流はほとんどないため、健常者との違いを肌で知る機会を設定した。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常ふれることができない各種手椅子の体験活動ができることから、できるだけ広い場所で実技・体験を行う。</li> <li>○事前に体験できる手椅子の種類を明確にし、どのような体験活動が可能であるかを検討する。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒にとっては貴重な体験であり、有意義な講演会であったと感じる。保護者を含めた講演会として、時間を多く設定することで、社会に目を向ける機会となると思う。</li> <li>○生徒のみの体験としては、新たな経験や未知なるものに触れる機会と捉え、3年後に設定できればよいと考える。</li> </ul>